

うしお

共同募金受配施設

社会福祉法人 竜雲学園
うしお編集室 (087)889-0724

再第92号

「久しぶり、元気だった？」「変わりない？」2年ぶりの再会に笑顔がこぼれます。先日、大学時代の友人6人で1泊2日のミニ同窓会を行いました。卒業してから早25年、社会福祉学科を卒業した私たちですが、就職は行政、一般企業、医療、福祉と様々でした。そして、家庭を持ち、子育てもひと段落し、自分の時間が持てるようになり、5年程前から同窓会ができるようになりました。それぞれの道を歩み、それぞれの生活を送っ



竜雲舜虹苑 施設長
川原 江美

人とのつながり

ていますが、会えば大学時代に戻ります。大学時代にこんなことがあったとか、他の同級生の現在の様子など、愚痴を言ったりこれからのことを話したり、とりとめのない話をしあつという間に時間が経ってしまいます。また、様々な所に就職した私たちですが、友人6人みんな現在在は福祉の職に就いています。分らないことや不安なことを話するとそのうちの誰かが「それはな…」と答えてくれます。この友人たちは私にとってかけ

がえない宝物です。縁あって出会い、絆を結びます。縁も絆も人とのつながりにおいてなくてはならないものです。歳を重ねるごとに、人との出会いについて考えることが多くなり、ひとつひとつの出会いの大切さを感じるようになりました。楽しいとき、悲しいとき、色々な場面で誰かと一緒に、誰かがいるから、分かち合ったり乗り越えられたりできるのだと思います。私は、竜雲舜虹苑に勤務し今年で23年目を迎えます。この中で介護職員、生活相談員、施設介護支援専門員と様々な職種を経験させて頂きました。施設長代理、そし

て施設長の役職に就かせて頂いてからは、デイサービスセンターや老人介護支援センター、ケアハウス等の利用者様やご家族、職員、そして地域の方々とも関わりを持つ機会が多くなりました。利用者様の支援を一人で行うことはできません。支援を行う中で、様々な職種が連携し、ご家族等の協力があつて取り組んでいきます。そして、取り組みを進めていくうちに連帯感や達成感につながります。うまくいったり、すぐに結果がでることばかりではありません。試行錯誤しながら、仲間と取り組むことが大切なのだと思います。私自身も悩んだとき、行き詰ったとき、いつも仲間がいました。優しく声をかけてくれる方もいれば、叱ってくれる方もいます。その度に仲間の存在が大きいに気付かされるのです。

また、利用者様の中には認知症を発症し、ご家族や友人が分からなくなられた方もおられます。たとえ分からなくなったとしても、利用者様の話を傾ける誰かがいれば、少しは安心して生活できるのではないのでしょうか。人は誰でも誰かとつながっています。縁や絆、人とのつながりを大切にしながら、成長していきたいと思えます。最後になりましたが、今後も利用者様やご家族に安心して利用して頂けるよう取り組んでまいりますので、よろしくお願い致します。

助成報告 ○平成29年度(平成30年度実施)香川県共同募金会助成事業



施設名 ●多機能型事業所 ぼだいじゅ
事業内容 ●送迎用車両整備事業
整備車両 ●トヨタ シエンタX 1台
事業費 ●1,766,877円
助成金額 ●1,300,000円
事業完了日 ●平成30年5月30日

平成30年度 寄付報告

温かいご支援、ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

- 公益財団法人 松平公益会 様
- 竜雲学園後援会 様
- うしお会竜雲少年農場部会 様
- 株式会社キスマ・フードサービス 様
- 後藤設備工業株式会社 様
- 三和電業株式会社 高松支店一同 様
- 秋山 彰 様
- 磯村 正悦 様
- 猪熊 靖子 様
- 河野 ヒロ子 様
- 山本 ヒロ子 様



竜雲学園後援会総会のお礼

去る6月2日に行われました竜雲学園後援会第三十四回総会において、松平会長をはじめとして多数の会員様ご出席のもと、すべての議案についてご承認頂くことが出来ました。平成二十九年援助金として九百七万五千円を竜雲学園にお渡ししました。会員皆様に御礼を申し上げます。今後ともご指導、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

編集後記

8月の香川県知事選において浜田県知事が3選を果たされました。今回の知事選において浜田県知事は「前進した前進」という言葉をスローガンに政策を掲げられていました。この意味は、現状で満足するのではなく、一歩ずつ確実に進め笑顔の香川県を作って行くという事でこのスローガンがかげられたそうです。この考え方は私達の仕事においても大事な事だと思えます。現状の支援で満足せず利用者様にとってもつとよりよい支援がないかを日々考えながら業務を行っていきたいと思えます。

竜雲かしのき園
生活支援員 S

●障害者支援施設 竜雲あけぼの学園

みんなでかんがえよう!



施設長代理 大本 浩次

私は、今春入職以来11年間勤めた竜雲少年農場を離れ、竜雲あけぼの学園へつてまいりました。初の異動で緊張しましたが、そんな心配をよそに利用者様は「〇〇さんは今日夜勤や」、「大本さん来週検査やでー!」等、たくさん話しかけて下さいます。そう、あけぼの学園の利用者様はとにかくコミュニケーションが好きで、お話し好き。利用者様同士でも支援員でも、色々な話をされます。自分の興味関心や好き嫌いを言葉で表現で

きます。中には支援員の前ではちよつと...という方も利用者様同士だと気兼ねなく話ができるようです。ただ、言葉ではつたり伝えられる分、気持ちやストレスにでてしまいトラブルの原因になる事も事実です。いくらお話が得意でもけんかの当事者同士で話し合つて解決する事は容易ではありません。そんな時は支援員が間に入り、両者の言い分をよく聞きます。互いの気持ちを支援員が代弁し、ようやく解決する事もあります。本来は一人ひとりが相手の気持ちを気遣いトラブルなく生活することが理想なのかもしれませんが、30名の方が同じ生活リズムで寝食を共にする中であつて、それは無理を強いる事に他なりません。ただ、そうは言つてもほんの少しの気遣いやゆずり合いで何の問題もなく過ごせることが日常生活の中ではたくさんあります。それを今回は「自治会」の場で利用者様にお伝えしました。

自治会は利用者様同士でリーダーを決め、生活の中で気になる事を話し合い、どのように気をつけるか等を決める場です。ただ、近年は利用者様の高齢化等で利用者様だけで何かを決めることは難しくなつており、本来の自治会としての機能を成していませんでした。そこで、支援員が提案させていただき、それを

利用者様で話し合つて決めていただくスタイルになっていきます。今回の自治会では、食事場面の中の「あ、危ないな」や「少しみんなが気にかければな」と思うことをロールプレイを通して利用者様に伝え、考えていただきました。ロールプレイとはその場面を演技で再現し、客観的に自分たちの行動を振り返つていただく手法です。支援員が利用者様の役を演じ、その中で「あれ?おかしいな!」と思うところを指摘していただきました。いよいよ「あけぼの劇場」の幕開けです。劇中で注目の場面がやつてきました。するとあちこちで「ハイ、ハイ!それおかし!!」「それはいかんわ」と意見が飛び交います。白熱した支援員の演技もあり、自然と注目し、活発な意見で自治会が進みました。後日の食堂では、ロールプレイで自ら

指摘したこともあつてか、いつも増してゆつたりした雰囲気です。食事会をさせていただきました。コミュニケーションの方法はたくさんあり、それぞれに得意不得意があります。皆で考えることでより理解が深まることも多くあり、これからも利用者様に納得が得られるコミュニケーションを大事にしたいと思ひます。

●就労支援事業所 竜雲あけぼの学園

余暇活動



管理者代理 内海 純子

かしのき園では年間を通して様々な余暇活動を行っています。

今年度も4月のお花見、イチゴ狩りをはじめ、5月はピザ&クッキー作り、6月今治への日帰り旅行と実施してきました。今回は、今年度2回目のボウリング大会をご紹介します。ボウリング大会は前回のリベンジを狙っている方も含め、ボウリングが好き

な23名の参加となりました。ボウリングの前には、このところ恒例となつている外食で腹ごしらえ。今回は「はらだ牧場 高松おいしい広場店」での昼食です。チキン南蛮定食、かつ丼定食、生姜焼き定食などお肉メインのごちそうに思わず笑顔いっぱい。ゆつくりと時間をかけて食事をいただいた後にボウリング会場に向かいました。

ボウリングは1グループ3人〜4人の編成で7グループに分かれ、前回同様に3階フロアの貸し切り。2回目の施設利用の為、貸し靴を借り、3階に移動し、自分の名前が表示されているレーンに行つて、ボールを選んで、と利用者様、職員ともにスムーズにスタンバイできました。いざ試合が始まると、普段みられないような気迫あふれる打球を見せる人、慎重に丁寧に打球する人様々でしたが、あちこちで歓声が上がります。ガッツポーズやハイタッチをする姿がたくさんありました。

Collage of bowling photos with text overlays: 'STRIKE!', '2連覇!!', '行け、ストライク!', 'ねらいを決めて!', 'まずは腹ごしらえ。', 'ハイハイハイ~', 'え~ やめてよ~', 'そのおかず、おいしそうやな~。ちよつとちょうだい', '人のとつたらいかんで!!', '今の場面わかるひと~'

ボウリングは1グループ3人〜4人の編成で7グループに分かれ、前回同様に3階フロアの貸し切り。2回目の施設利用の為、貸し靴を借り、3階に移動し、自分の名前が表示されているレーンに行つて、ボールを選んで、と利用者様、職員ともにスムーズにスタンバイできました。いざ試合が始まると、普段みられないような気迫あふれる打球を見せる人、慎重に丁寧に打球する人様々でしたが、あちこちで歓声が上がります。ガッツポーズやハイタッチをする姿がたくさんありました。

●多機能型事業所 ぼだいじゅ

10年の節目



主任 職業指導員
松浦 敬

「本格手打ちさぬきうどん 竜雲」は平成21年にリニューアルオープンして、来年の4月で節目の10年を迎えます。

香川県では第1号の「就労継続支援A型事業所」として、注目を浴びながらのスタートでした。立ち上げ当初は、利用者様に給料が支払えるようになることを目標にして、「担々つけうどん」や「生醬油中華そば」など、他のうどん店にはない「竜雲」独自のメニューも開発しながら、当時の職員は必死に

なつて店舗の運営に取り組みました。

そして、うどん店に關わった全ての職員の方々の力添えのおかげで、9年目の今も、こうして営業を続けられています。ただ、立ち上げから5年ほどは「うどんブーム」の余韻のようなものもあつて、順調に売り上げを伸ばすことができていきましたが、ここ数年は、近年、うどん屋以外の飲食店でも売り上げが伸び悩んでいると言われる中、当店の経営状況も決して安定してい

るとは言えません。以前は、利用者様に臨時の「ボーナス」も支給できていましたが、現在は、利用者様に賃金を支払うのが精一杯の状況です。しかし、このままの状況が続くことは許されず、「売り上げアップ」のためにすべきことを考えなくてはなりません。

そこで、今年の3月に事務局の方にもご協力いただきながら「本格手打ちさぬきうどん 竜雲」業績向上プロジェクト」を立ち上げました。

「お店の課題」や「お客様が求めているニーズ」は何かを分析し、さらに、その課題をクリアしたり、ニーズに応えたりするためには「どんなサービスを提供すればよいか」をスタッフみんなで考え、できることから順次取り組んできました。プロジェクトで実行し

た主な取り組みとしては、
・お品書きのリニューアル（メニュー内容、価格の見直し）
・うどんの「中盛り」の提供
・白替わり（週替わり）セットメニューの提供
・和スイーツの提供
・掲示ボードの設置
・外国語のお品書きの製作

プロジェクトを立ち上げてから約半年が経ちましたが、売り上げが順調に伸びているとは言えず、まだまだ試行錯誤を重ねながら、業績アップに向けて、もっと努力しなければなりません。

さらに、これから10年先も、このお店を「障がい者の方たちが安心して働ける場所」として維持させるために、先を見据えながら、今の職員ができることを着実に取り組みで行こうと思



お品書きを、全面リニューアル!!

FOSHINAGAKI 外国語メニューを作成★

手書きの掲示ボードで、お迎え♡

中盛りが、選べるようになりました☆

●障害者支援施設 竜雲少年農場

制作を通じて



生活支援員

今田 万郁

少年農場では現在、70名程度の若い方から年齢の方まで幅広い年齢層の方が生活されています。農場では、一人ひとりが持つことができることを引き出し、いく「表現する場」を大切にしています。また、生活の中での共通の「楽しみ」と繋げていくことでより豊かな生活になるようにと活動しています。

その2つが形となる時間のひとつが日中活動の制作活動です。制作は、食堂の壁画の作成や夏

祭りなどで使用する装飾等を作ったりしています。ポンポン（わりばしにガーゼを巻いて作った筆のひとつ）で色を塗る事ができる方、はさみを切つて形をかたどることがある方、点々を延々と描くことができる方、自身の感性のままに模様や絵を描くことができる方、できることはみなさんそれぞれです。私たち支援員は「できる」を見つけて出すことに日々、懸命になります。試行錯誤しながら寄り添い、利用者様と

楽しみながら挑戦することで見つけ出していきます。「できる」力が集結して、季節ごとの壁画や花見やクリスマス等のイベント時の装飾などができあがります。そんな制作の中で才能を開かせて、自身の描きたいものを表現できる力を伸ばしていけた方もおられます。作品が展示作品として選ばれ、自身の表現する場所を広げることができました。「楽しみ」と「表現できる」を体現した姿がそこにありました。作品を持って「できたで」と笑顔で伝えてくれる姿はどの方もとても印象的です。この笑顔を見失わないようにしていかなければと制作や作品作りに関わる私自身も毎回改めて気が入ります。今年も綾川町の「山並み芸術祭」の作品作

りに参加させていただきました。1人1枚ずつ風が渡されて「夢や野望」をテーマに思い思いのものを描いていきます。出来上がった連凧（れんだこ）を運動場へ持ち出して、発案者であるアーティストの信長さんと近くを通りかかった地域の方や保育園の

子供たちと一緒に20枚以上上連なつた連凧を大空に向かつてあげました。この連凧をみながら、地域の方々と交流し表現できる機会が増えればと改めて感じました。これからも利用者様の「表現できる力」をより引き出して行けるように工夫しながら、

さまざまな「楽しみ」に繋げていけるように支援していければと考えています。今後も、何か作品作りのアイデアや工夫の仕方などがありましたら、いろいろな方にアドバイスをいただいてひろげていければと思います。



やまなみ芸術祭 連だこ作り



9月壁画



作品作り

みんなの夢が上がった!

●竜雲舜虹苑

仏生山町の二員として



施設長代理
三宅 啓太郎

去る9月10日、仏生山小学校において仏生山地区連合自治会、仏生山地区コミュニティ協議会主催の仏生山地区防災訓練が開催されました。「自分たちの町は自分たちで守る」

「煙避難体験」「消火訓練」「車椅子介助・体験」を実施するという内容です。我々舜虹苑職員は専門分野でもある「車椅子介助・体験訓練」を担当してきました。

をテーマに地域住民、小学生、各種団体ボランティアスタッフを含め、500名以上という大規模な訓練です。各自治会の一時避難所から小学校までの避難訓練の後、小学校の体育館において、「応急手当」「AED心肺蘇生」

事の始まりは防災訓練より遡る事4か月前、数年前から参加させて頂いている仏生山コミュニティ協議会の「安心の素部会」に参加している時の事でした。防災部会の会長兼、安心の素部会の副会長である萬藤さんが

「三宅さんお願いがあるんやけど…」と声をかけられ、舜虹苑に防災訓練時の車椅子を使った介助訓練を担当して欲しいと言われてました。私はこれほどの大人数に対しての介助訓練を行った事が無かったので少し戸惑いつつも、舜虹苑においてここ数年地道に活動してきた「地域との顔と顔の見える関係作り」の成果でもあったのでとても嬉しく感じました。

苑長に報告後、参加協力する事を決め、総勢400人で一度に限られた時間でどのように実施するかを検討して行きました。現場の下見を行い、訓練案を作成し職員の意見をもらうなど準備を進めて行きました。お手伝いして下さるボランティアスタッフに対しての説明会にも参加し当日を迎えました。

当日は生憎の荒天で朝から大雨が降っていましたが、雨天の為、予定していた訓練計画を現場にて調整する必要がありました。同

行っていた職員達が機転をきかし開始時間までに準備を終える事ができました。訓練の概要は、約100人の方々に対し25分間で訓練を実施し、それを4回繰り返しというものでした。回を重ねるごとに職員やスタッフの動きも良くなり無事に訓練を終える事ができました。お手伝いして下さったPTAや防災部会の方々の献身的な対応には感謝の気持ち一杯です。本当にありがとうございました。

今回の訓練のテーマは「自分たちの町は自分たちで守る」ですが、仏生山町にはその力があると思います。これほどに町民や警察、消防をはじめとした各種団体が一体的となり実施できる地域力は他の地域に比べても抜きん出ていると感じました。その活気あふれる地域の一員として舜虹苑はこれからも「介護・福祉」についての専門分野で地域貢献が出来るように努めていきたいと思えます。



「さあ頑張るぞ！」



体育館は参加者一杯でした！



体験の様子

●職場環境改善委員会

仕事を楽しく、職場を元気に！



委員長 古藤 徹平

職場環境改善委員会(以下「enjob(エンジョブ)委員会」)は「これからの10年後、20年後も働きやすい職場、魅力ある職場作り」をテーマに掲げ、「職員間の連携強化」、「福利厚生の上」、「人材の確保」、「メンタルヘルス」、「パワハラ・セクハラ防止」など様々なことについて議論や啓発活動を行なっております。enjob委員会の活動を紹介させてもらえればと思います。

「enjob(エンジョブ)」とは、enjoyとjobを掛け合わせて作った造語です。職場環境改善という堅苦しいイメージではなく、キャッチーで親しみやすい横文字の名称にしています。設立5年を迎えた今年度は、主に「職員間の交流、連携」と「人材の確保、採用活動」について、取り組みや啓発活動を行なっています。

「職員間の交流、連携」は、職場以外でも職員同士が交流できる機会を増やすことで新たな発見や関係構築を図ることを目的として、年に数回、ソフトバレーボールなどのイベントを企画しています。今年度は「ボウリング大会」や「夏の打ち上げinビアガーデン」と称した「職員懇親会」を企画しました。たくさんの方に参加していただくことで交流を深めることができました。今後は高松市ウォーキングイベントへの参加や平成最後のボウリング大会などを開催予定です。

「人材の確保・採用活動」は主に就職面接会への参加や大学などへの訪問、広報活動、法人職場説明会の開催を行なっています。単に人材集めをするのではなく、求職者視線・志向で捉えること

に着眼点を置き、現場で働く職員が感じている福祉の仕事の魅力ややりがい、竜雲学園の強み等をわかりやすく伝えられるように、委員会で議論や共有をしています。今後も来年度やそれ以降の採用活動に向け、地道に活動を継続していきます。

また、今後の活動として各委員会との連携・協力も図っていきたくと考えています。リスクマネジメント委員会と「虐待防止について」、まちナビ委員会と「地域への発信、ホームページの見直しについて」、人財育成委員会と「人材を『人材』にするための研修につい

て」など、法人全体が一丸となつて盛り上げていけるよう、潤滑油のような役割ができれば幸いです。『利用者様・ご家族様から信頼され、地域の方から愛され、職員

の働きやすい職場』このwin×win×winな誰からも愛される竜雲学園をこれからも継続できるように取り組んでいきたいと考えています。



ソフトバレーボールの様子

法人職場説明会の様子

